

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第 28 号

平成30年(2018年)
1月1日 発行



金剛山頂から望む大阪

合気道のお稽古を始めました。年を重ねるとなかなか師に就いて習うということをしなくなるものですが、一念発起、60歳にしての入門です。

合気道には試合がありません。その修練の過程では、いたずらに「強弱勝敗を論じない」というのが合気道の基本的な考え方です。「誰かに勝った」とか「誰かに負けた」と考えることは合気道の修練においては妨げにしかありません。

翻って「あの人より私は優れている」、逆に「あの人より私は劣っている」と誰かといつも比べて一喜一憂しているのが私たちの日暮しです。

阿弥陀さまは、人間に優劣をつけ、勝ち負けをつけたがる私たちのあり様を痛ましいことと喚びかけてくださっています。

道場心得のひとつに「人の技を批判しないこと」とあります。いつも私の姿を問う言葉としていただいております。

(佐々木太一)

と う ひ が ん 到 彼 岸



～大阪別院
彼岸会法話より～

かどかわ たかし
浄方寺 門川崇志

とりあえず…

こんな時、厄年だからお祓いや厄除けに行かなければと思う心が起こっても仕方がないのかもしれない。

人は弱いもので、不安や心配事があると、つい何かにすがりたくなります。

「やらないよりはマシか。とりあえず…」。こんな思いで、知らず知らずのうちに、お祓いだ、厄除けだと、あれもこれもと周りにあるものに飛びつき右往左往。

実はこの「とりあえず」という思いこそが厄介なのであり、本当によりどころとなるものが定まっていない、私たちの迷いの姿そのものなのです。

本当の自分の姿

そんなある日、また体調を崩し、赤ちゃんの頃からお世話になっている通いのお医者さんへ。ひと通り私の身体

を診察して先生が一言、「君ももう中年やな」。

今までは病気とは無縁だったのに今年は何ぜ？と思っていた私は、この言葉でハッとさせられました。

仏教では因果が説かれ、今置かれている状況には必ず原因があると教えます。病気やケガにも必ず原因があるはずなのに、お祓いや厄除けなどにすることは、本当の自分の姿から目をそらしているだけなのかもしれません。

祈る必要も厄除けの必要もなく、自分自身と真正面から向き合うことができる、そんな仏さまの智慧をいただき教え、「ただ念仏」の道と出遇えたことの有り難さを「厄年」に再確認させていただきました。

(平成29年9月20日勤修の

大阪別院彼岸会法話より)



今年は私にとって病気やケガの一年となりました。3月にノロ(胃腸炎)、5月にはアデノ(結膜炎)というウイルスに感染。6月には、キャベツの千切りで指先をスライサーで切ってしまい、救急センターに電話する羽目に。なんでこんな目にばかり遭うんだと思った時、ふと頭をよぎったことが。今年は41歳だ。ひよつとしてと調べる、と、数え42歳は本厄とありました。

如^{によ}是^ぜ我^が聞^{もん}

お念仏の日暮し

大阪教区 最勝寺

中井賢隆^{なかい けんりゅう}師



も突き破ってきます。その受け皿が突き破られるとき、私の理解できる程度でない、大いなる世界が広がります。仏のみ光は私の頭で理解する必要もない確かな教えであったと気づかされる。それがお念仏の教えです。

それぞれの生活の中の出来事を通してお念仏に自身の生き方、歩み方をたずねてゆくところに真宗門徒の日暮しがあると説かれました。

私を支え育む世界

生まれる場所も何ひとつとして自分で選べない。ただいたその場所をかけがえのない場として生きる。その道を顕かにしてください。お念仏を軸とした確かな日暮しであると聴かせていただきました。

(葦名 彰 記)

平成29年10月27日、真覚^{しんかく}新門さまを初めて導師としてお迎えし、報恩講が厳修されました。ご親教で引用された浄土和讃「弥陀成仏のこのかたは、いまに十劫をへたまえり、法身の光輪きわもなく、世の盲冥をてらすなり」のお味わいを複演の中井賢隆師よりご法話いただきました。

み光に照らされて

ご親教の中の「阿弥陀仏のみ光は、自分中心の思いの中で生きている私たちの闇の深

さを照らし出し、同時に私自身を支え育む世界に気づかされるところに大きな喜びの心が生まれてまいります」という親鸞聖人のご和讃のご領解を通してお話しいただきました。

腑の底を突き破る

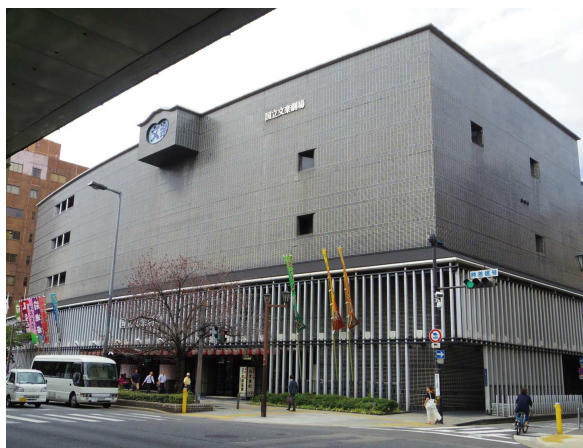
あたりまえと思っていた感覚が実は闇であった。そのことがはつきりさせられるのが阿弥陀仏のみ光に遇うということです。その闇がはつきりすると同時に、闇に固執し

ていた私が大いなるみ光のはたらきの中に生かされていることに気づき、真なる喜びが沸き起こる。

ご法座において、よく「気づく」ことが大切と言われませんが、「気づく」と「わかる」は違います。法話を聞き「今日のお話は、よくわかった」ということを、「腑に落ちた」と言いますが、「腑に落ちた」とは私の思慮分別を尺度とした受け皿でものごとを受け止めたということです。ところが、仏のみ光はその受け皿を

大阪探検

ぶんらく 国立文楽劇場



国立文楽劇場



展示されている文楽の人形

【アクセス】

・地下鉄(堺筋線・千日前線)
「日本橋駅」、近鉄「近鉄日本橋」駅下車 7号出口より徒歩1分

実相に迫る

国立文楽劇場は全国で四番目の国立劇場として一九八四年に開館しました。その歴史は十七世紀後半に大阪で人形浄瑠璃として成立しましたが、一時衰退。十九世紀始めに興行師・植村文楽軒が復興し「文楽」が人形浄瑠璃の代名詞となりました。文楽は語り手である太夫と三味線(浄瑠璃)に合わせ、三人の人形遣いが一体の人形を動かして演じる総合芸術です。

文楽と聞くと「とつつきにくい」と感じるかと思います。文楽に出てくる演目は武士の忠義や、町人と遊女の心中などが多いです。今の

時代にそうであるものではありませんし、とつつきにくくて当然です。

しかし作家の三浦しをんさんは『伝統芸能』に触れる楽しみとは、時代とともに変わる部分と変わらない部分がある『人間の心』の実相に迫ることだ」と言われます。

私自身も文楽が長年続いてきたのは仏教の教えと同じように、人間の根幹に関わる姿を表現し、それが観る人の心を掴んでいるからと感じています。

大阪を題材にした作品も多く、例えば「曾根崎心中」を観た後、お初と徳兵衛が足早に駆け抜けていく姿を思いながら曾根崎を散策すれば、また違った大阪を楽しむことができるかもしれません。(玉出宗順)

ごえんさんを訪ねて

ほうおんじ てらだ むねたか
報恩寺（堺市東区）寺田宗隆 住職



佛光寺第7代・了源上人は、戦国武将の楠木正成に光明本尊一軸を授与されました。そして元和元（1615）年、河内国八上郡野尻に道場が創建された際、代々受け継がれてきたその光明本尊を安置したのが報恩寺の起源とされています。

はじめは東本願寺に属していましたが、寛文8（1668）年に光明本尊とゆかりのある佛光寺派に転派しました。

この歴史ある報恩寺の第19代を9年前に継職されたご住職。毎月の婦人会ではお経のお稽古にも取り組まれています。住職としてのモットー



報恩寺に伝わる光明本尊

は「親しみをもって人と接し、出来ることを確実に」だとか。

式務衆として

本山では、法要作法をつかさどる式務衆としてご活躍です。本山での朝の勤行当番も、通常は年間10日間なのですが、毎年20日間お勤めされています。過去には年間40日間だったことも……。

それとは別に、式務衆の核となる式務局員として、また式務衆の集まりである龍音会の会長としても、本山に頻繁に通われています。

また、次世代の式務衆をになう式

務修習生の専任講師としてもご活躍中。ご住職いわく「ご歴代から受けただご指導を、次の世代に受け渡す一助となればと思い

お引き受けしました。今回、第1期の修習生が終了しましたが、よりよいマニュアルをきっちり作り上げて、次期修習生を迎えたいですね」と、本山を思う気持ちは人一倍。

趣味

ご多忙の中、心と体を癒すのが、休みの日に行く趣味のゴルフだとか。「まわりからは『草刈り』と言われませんが、気の合う仲間が集まり楽しんでいます」とひかえめにおっしゃるご住職。

最後にひと言、「本山などで私を見る機会があれば、気軽に声をかけてください」と親しみやすくお話しくださいました。（隅谷俊紀）

■報恩寺（ほうおんじ）

〒599-8116
堺市東区野尻町488
電話 072-285-1005
Fax 072-285-1005

大悲トピックス

■大阪別院報恩講を厳修

10月27日、真覚新門さまが大
阪別院で初めての導師を勤めら
れ、賑やかに報恩講が厳修され
ました。

恵照ご門主は、新門さまとそ
ろってお参りすることを楽しま
に、今年の春から準備されてい
ました。しかし本山の御正忌報
恩講を前に体調に配慮され、こ
の度はご不参となりました。

真覚新門さまは、ご門主の願
いを受けられて、ご親教（おこ
とば）を代読されました。

大阪別院に新門さまが参拝さ
れるのは約30年ぶりのことだそ
うです。

懇親会では、その当時のこと
を知る大阪教区の住職や坊守と
歓談されていました。

（大阪別院輪番 葦名 彰）



ご門主のご親教を代読される新門さま（右）

■懇志御礼

奈良教区 御一同様

■新住職の紹介

門川崇志（第二組・浄方寺）

■お悔やみ

謹んで哀悼の意を表します。

第二組・光用寺

佐竹明子様 行年87歳

（9月14日寂）

御本山  用達

株式会社 **川勝法衣店**

フリーダイヤル **0120-075-055**
(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) 371-0367(代)
FAX (075) 371-5088

本山佛光寺 御用達

石の総合メーカー

 株式会社 **石留石材**

ホームページ
<http://www.ishitome.co.jp>
本社：京都市中京区堀川御池角
TEL 075-841-1149 FAX 075-812-5826

- 大正三年創業の信頼と実績 -

 **石留石材株式会社**

各種石塔・石仏・記念碑
寺社建築石材まで

○ご相談は下記フリーダイヤルへ 携帯・PHS OK

0120-53-5578

[本社・工場・展示場] 藤井寺市津堂2丁目9番29号

浜屋は関西最大級の
お仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の
専門店です。

やすらぎの
世界を創る



浜屋

通話料無料/浜屋郵路本社フリーダイヤル
お問い合わせ
お申し込みは **0120-1616-94**
●受付時間/午前10時～午後6時30分

燦ホールディングス グループ

まごころ葬儀を創造する。

 **公益社**

公益社 ご葬儀相談センター (24時間・365日受付・通話料無料・携帯電話OK)

0120-567-701

※2012年5月現在 [2-0131]

燦ホールディングス グループ

なごみ庵



き・た・は・ま
KITAHAMA

法要料理
希望の場所までお届けします。

■四條畷店
■瓜破店
■伊丹店

☎0743-78-7521
☎06-6769-0140
☎072-773-7531

※2012年5月現在 [2-0132]

和奏の会 翠笛会

寺院のイベントに邦楽(尺八・
箏)出張演奏いたします。

曲目はリクエストできます。

事務局：阪南市新町 宝林寺

電話 072-472-1414

<http://homepage2.nifty.com/suiteki/>

創業安政3年

京 佛 具 調 進

森田屋

福野御佛具處

〒601-8424

京都市南区西九条猪熊通九条上る

tel. fax 075-691-8423



株式会社 **モントラベル**

〒550-0013

大阪市西区新町1-8-1 行成ビル

TEL. 06-6531-1344

FAX. 06-6531-1346

<http://www.monto.co.jp>

仏跡参拝ならお任せください!

だいひ 絵日記

- 10月18日(水) 大悲の会編集会議(第28号読み合わせ)
 10月21日(土) 佛青懇和会大阪別院仏具おみがき
 10月27日(金) 大阪別院報恩講(法話:中井賢隆 師) ①
 11月15日(水) 大悲の会編集会議(第28号読み合わせ)
 11月18日(土) 法友会研修会(名残り惜しく思えども・講師:藤井良丸 師) ②
 11月27日(月) さつき会御正忌報恩講奉仕活動(～28日)
 12月6日(水) さつき会研修会(親鸞聖人の仏教讃歌に学ぶ・講師:藤末光紹 師)
 12月12日(火) 大悲の会後援・布教大会(正念寺にて)
 12月21日(木) 佛青懇和会研修会(写経と写仏)
 12月25日(月) 大悲の会編集会議(第28号発送作業・第29号内容検討)

(法友会=住職会、さつき会=坊守会、佛青懇和会=青年会)



夕に感謝
 朝に礼拝
 伝統工芸 京仏壇・京仏具
 (株) 若林
 SINCE 1830 www.wakabayashi.co.jp
 京都市下京区七条通新町東入
 ☎(075)371-3131代 年中無休
 E-mail info@wakabayashi.co.jp
 フリーダイヤル ☎0120-37-8585(各店共通)
 東京支社・築地店・札幌店・仙台店・福岡営業所

高
 龍水法衣店

慶事、仏事、各種会合等の際は、
 和光菴の仕出し料理を御利用下さい。

京懐石
 和光菴

協賛
 法友会
 さつき会
 佛青懇和会

沙羅
 寺院コム
 http://jiin.com

株式会社 和光菴
 〒543-0073 大阪市天王寺区生玉寺町3-32
 TEL06-6774-8090 www.wakouan.co.jp
 西天満店 結心(ゆいごころ)
 〒530-0047 大阪市北区西天満4-10-5-1 階
 TEL06-6809-6311 www.yuigokoro.com



どなた様でもお参りいただけます

法要・法話会のご案内



大阪別院修正会

1月2日(火) 正午

大阪別院彼岸会

3月18日(日) 午後2時

法話：脇阪義仁 師

3月21日(水・祝) 午後2時

法話：佐々木太一 師

3月24日(土) 午後2時

法話：葦名 彰 師

本山佛光寺茶所布教

毎日午前7時半

※大阪教区布教使の担当は下記の通りです

1月21日(日)～31日(水)

法話：佐々木太一 師

3月11日(日)～15日(木)

法話：玉出宗順 師

大阪教区寺院で開催される法話会

◎高照寺(堺市北区・072-252-2122)

1月20日(土) 午後3時

「聞法の集い」法話：門川崇志 師

2月17日(土) 午後2時

「真宗講座」法話：三木彰円 師

※詳細は各寺院にお問い合わせください



「大悲の会」後援・布教大会

超願寺(大阪市浪速区・06-6631-8956)

1月21日(日) 午後2時

法話(第一席)：脇阪義仁 師

法話(第二席)：隅谷俊紀 師

法話(第三席)：寺田宗隆 師

編集秘話

今回は訂正されることはないだろうと原稿を提出。しかしたくさんのチェックとご指南を受けました。私の固執した思いを突き破って指摘してくださることはとても有難く、この度もいろいろと気づかされました。真剣な誌面作りで信頼関係も培われてきたと感じる今日この頃です。(葦名)

編集後記

第28号は、『大悲』となって24回目の発行。大悲の会が発足して丸6年が経ちました。毎月の編集会議、そしてその間にやりとりされるメールでの意見交換。本当にありがたい「研鑽の場」です。大阪教区寺院の所属で、この「研鑽の場」に顔をだしてくださる方がいらっしゃいましたら、大悲の会までお知らせください。(隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』 第28号(冬号)
平成30年(2018年)1月1日発行(発行部数2200部)

発行：大悲の会

事務所：佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区荻田6-11-24 電話 06-6691-1362

郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

大悲ホームページ <http://daihi.org/>

大悲の会

長田 譲(会長)

隅谷俊紀(副会長)

寿栄松正顕(会計)

玉出宗順(会計)

門川崇志(監事)

佐々木太一

葦名 彰